

No.	B05
タイトル	富山大橋架替事業の効果—特に景観検討及び架替記念事業の成果—
所属・名前	富山県 富山土木センター プロジェクト推進班 副主幹 山中 久生
キーワード	① 道路整備 ② 景観・デザイン ③ 架替記念事業
<p>昭和 11 年供用の富山大橋は、1 日当たり約 2 万 6 千台の自動車交通量にもかかわらず 2 車線道路であったため、日常的な交通渋滞が発生し、老朽化も進んでいたことから、富山県が都市計画事業により、前後の取り付け道路 4 車線化整備とあわせて架替を行い、平成 26 年度に完成した。</p> <p>これにより、渋滞緩和や所要時間短縮が図られたほか、歩道幅員拡幅による安全な通行空間の確保、単線であった路面電車の複線化による公共交通の活性化、コンパクトなまちづくりに寄与した。</p> <p>さらに、構造形式選定と同時に景観検討を行ったことにより、良好な道路空間の創出に成功した。また、旧橋の記録・記憶を残し、新橋の完成を祝うため、多数の富山大橋架替記念事業イベントを実施し、これにより、現在も小学生による高欄清掃活動が実施されるなど富山大橋、ひいては土木施設を大切にする気持ちの醸成にも寄与した。</p>	